

暑さに負けない米づくり



令和7年3月 静岡県農芸振興課

高温障害(登熟不良による白未熟粒の発生・収量の低下)を防ぐには、収穫直前まで籾に十分な栄養が届けられる状態を保つことが大切です

そのために……

- ① 出穂後20日～30日まで**肥料成分**を持たせる
- ② 肥料を吸収できる**根の活力**とデンプンを生成できる**健全な葉**を保つ

～暑さに負けない稲 5つの対策～

1 土作りの取組み（根の活力を最後まで）

- ・深耕の励行（作土層15cmをめざす）
 - ・土壌改良材・ケイ酸資材、有機質資材の投入
 - ・適期植付・浅植えの励行
- ⇒ 根張りを良くする
- ・稲わらの年内すき込み
(腐熟促進剤の併用が効果的)
- ⇒ ガスの発生・根いたみを防ぐ

2 適切な施肥管理（施肥設計の見直し）

- ・基肥一発肥料は、高温で溶出時期が前進します
生育後半に窒素不足とならないよう肥料銘柄を選びましょう
- ・実肥の追肥も有効です

3 中干しで茎数を抑える（過剰な籾数は登熟不良の原因）

- ・生育前半の過繁茂を防ぎ、籾数を制御しましょう

4 出穂後は間断かん水を 早期落水をしない

- ・出穂後10日以降の間断かん水を行う
 - ・早期落水しない（早生で出穂25日以降、中生で出穂30日以降）
- 注：地域の用水の状況に応じて、できる範囲で対応をお願いします

5 品種の組み合わせによる高温リスクの回避

- ・高温耐性品種の導入
- ・中生・晩生品種の導入